

R-04

まちづくり推進会議における市民調査のデザインと実践

王 智弘（総合地球環境学研究所 外来研究員）

熊澤 輝一（総合地球環境学研究所 准教授）

木村 道徳（滋賀県琵琶湖環境科学研究センター 主任研究員）

地球研の熊澤といいます。第一著者の王智弘さんの代わりに発表します。研究の背景としましては、財政状況の悪化から行政サービスの維持が懸念される中で、新しい公共の担い手として住民の参画が求められています。そういった中で、市民を実践に導く「まちづくり推進会議」をどのようにデザインするのかということを研究の問いとしています。それを実現し、問いに答えるために、地方自治体が事業として市民調査を取り入れる意義と可能性を検討することを今回の研究の目的としています。

対象とする自治体は滋賀県の北西部にある高島市です。対象事業は、第2期高島まちづくり推進会議です。活動主体は市民26名と市職員18名の、合計44名です。2年間の事業で、1年目は高島市の将来像と課題を共有するワークを行いました。2年目は参加者間で問いを出し合い、その問いを共有するワークを行いました。このように出てきた問いを参考にしながら、現在市民調査を実施しています。この市民調査については研究者がサポートする形で進めています。そういった中で、まちづくり推進会議をまちづくり戦略ストーリーとしてどのように位置づけるのかということについて考察しています。ぜひポスターを見に来てください。

まちづくり推進会議における市民調査のデザインと実践

王 智弘(総合地球環境学研究所)
 熊澤 輝一(総合地球環境学研究所)
 木村 道徳(滋賀県琵琶湖環境科学センター)

〇問いと目的

- 財政状況の悪化から行政サービスの維持が懸念される中で、「新しい公共」の担い手として住民の参画が求められている
- 住民を「実践」に導くまちづくり推進会議をどのようにデザインするか
- 地方自治体が事業として市民調査を取り入れる意義と可能性を検討する

〇滋賀県高島市の概要

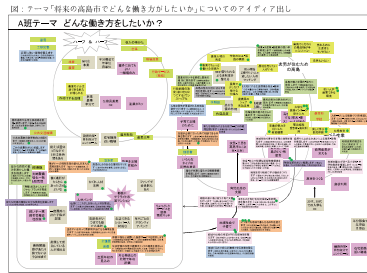
- 滋賀県の北西部に位置
- 平成17年に5町1村(マキノ町・今津町・朽木村・安曇川町・高島町・新旭町)の合併
- 市の面積の約5割が森林、約1/4が琵琶湖
- 人口現在5万人弱→2060年に3万人を割り込むと推計

〇高島市まちづくり推進会議とは

- 平成27年4月に一体的な市の発展に取り組む事業として設置
- 市民自らが課題と対策を検討することで、魅力あるまちづくりを推進
- 平成29年度からの第二期では、市民協働課、たかしま市民協働交流センター、研究者による2年間のプログラム設計と運営
- 活動主体は市民と市職員の26名

〇1日目:将来像と課題を共有するワーク

- どんな働き方をしたいか?
- オフをどう過ごしたいか?
- 高島市に残したいものは何か?
- 何にお金を使いたいか?



A-Eの課題を設定

- A. 「地域で支えあうコミュニティづくり」
- B. 「多様な働き方ができる」
- C. 「活かす自然・守る自然」
- D. 「地域で学び育つ」
- E. 「高島の文化」

〇参考文献

- 1) 橋本健(2010)「ストーリーとしての戦略—優れた戦略の条件」,東洋館経済新報社
- 2) ジーン・レイヴ&エイデン・ウェンガー(1993)「状況に埋め込まれた学習—正統的周辺参加」,産業図書
- 3) マシュー・リップマン(2014)「探求の共同体:考えるための教室」,玉川大学出版
- 4) 内田泰介(2004)「自分で調べる技術:市民のための調査入門」,岩波書店

〇2日目:「問い」を共有するワーク

- 触発し合いながら問いを立てる練習
- →6枚の疑問詞カード(5WH)を使用。1人1問に約1分。時間内に順番に回していく
- →選んだカードを出しながら「問い」を発表。思いつかない時は「パス」カード
- 質より量→いろいろな問いの立て方(切り口)を知る
- 投票を通して「問い」の力を感じる
- →調べてみたくなる、考えてみたくなる問い

図:テーマ「地域で支えあうコミュニティづくり」について立てられた問いと投票の結果

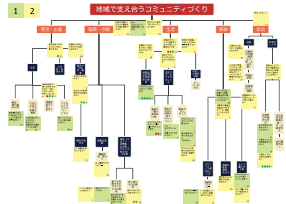


表:各テーマで関心を集めた問い(カッコ内は産育期表)と各グループが設定した課題表

グループ名	関心を集めた「問い」	設定された課題
地域で支えあうコミュニティづくり(40)	【1】中高生が自分である役割とは何か(4) 【2】(高齢者)共同生活をしたいと思ってる理由は? (4) 【3】地域のボランティア活動は簡単でいいと思ってるのか? (4) 【4】地域で支えあうコミュニティづくりって何ですか? (4) 【5】「住居・出稼」地域社会で育ててほかにできるのか、何をしたいのか、何をしてほしいのか、何をしてほしいのか(3)	子育て支援におけるコミュニティの可能性
多様な働き方(38)	【1】多世代の居場所がほしいのか? (4) 【2】「シェア・労働」(職社)を仕事にしたいのか? (4) 【3】「シェア・労働」(職社)を仕事にしたいのか? (4) 【4】「シェア・労働」(職社)を仕事にしたいのか? (4) 【5】「シェア・労働」(職社)を仕事にしたいのか? (4)	若者の働き方
自然・環境(64)	【1】(自然)自然をどう活用したいのか? (6) 【2】(自然)自然をどう活用したいのか? (6) 【3】(自然)自然をどう活用したいのか? (6) 【4】(自然)自然をどう活用したいのか? (6) 【5】(自然)自然をどう活用したいのか? (6)	家族・自治体・自然の共生
文化(84)	【1】(文化)文化をどう活用したいのか? (6) 【2】(文化)文化をどう活用したいのか? (6) 【3】(文化)文化をどう活用したいのか? (6) 【4】(文化)文化をどう活用したいのか? (6) 【5】(文化)文化をどう活用したいのか? (6)	子どもが活動する場 のあり方(大人の職業・役割)
高島の文化(8)	【1】(文化)文化をどう活用したいのか? (6) 【2】(文化)文化をどう活用したいのか? (6) 【3】(文化)文化をどう活用したいのか? (6) 【4】(文化)文化をどう活用したいのか? (6) 【5】(文化)文化をどう活用したいのか? (6)	祭りへの思いと課題 (食とのつながり)



〇考察:ストーリーとしてのまちづくり戦略

- 静止画から動画へ:「参加のほしご」を上るしくみ
- 「周辺の参加」から「十全的参加」に至る制度設計
- 「違い」としてのまちづくり推進会議における市民調査